

# さくら



令和7年5月7日(水)

## ぞうきん

この連休中、50歳になる教え子が「ぞうきん」という詩を送ってくれました。そして、私はこのような生き方をしてみたいと記されていました。作者は河野 進(こうのすすむ)さんというキリスト教の牧師さんとのこと。まずは読んでみてください。

**ぞうきん**  
こまった時に思い出され  
用がすめば  
すぐ忘れられる  
**ぞうきん**  
台所のすみに小さくなり  
むくいを知らず  
朝も夜もよろこんで仕える  
**ぞうきん**になりたい

河野牧師についてインターネットで調べてみました。1904年に生まれ1990年にお亡くなりになるまで、岡山ハンセン病療養所への慰問伝道に50年以上携わるなど、多くの社会貢献活動をされていたとのことでした。まさに神に仕えた方でした。

この詩を読んで、このような生き方ができれば、どれほど心の平穏が得られるだろうと思いました。また、このような生き方のできていない自分自身がいることにも気づかされました。「むくいを知らず」どころか、心のどこかで評価を求めている自分。「よろこんで仕える」どころか、してやったぞと傲慢(ごうまん)になっている自分。とても恥ずべき姿です。

この詩を目にして、高校時代の宗教の授業を思い出しました。聖書の中にある愛についての聖句です。(「コリント人への手紙」の一節)

「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」

キリスト教における愛は、神から人への無償の愛です。見返りを求めず、人の幸福をひたすら願う愛です。自分自身の生き方の間違いを、時にかなって気づかてくれた神、そして教え子に感謝。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

